

**新学術創成研究科 ナノ生命科学専攻**  
**【授与する学位】 修士（ナノ科学）**

大学（大学院）の目的
金沢大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

学類（研究科）の教育研究上の目的
新学術創成研究科は、革新的かつ新しい学問・産業の分野・領域の創成につながる異分野融合的な研究による成果や社会との往還を基盤に大学院教育を展開することで新たな学術の創成に寄与し、学際性・総合性・国際性を有する研究者や産業人等を養成することを目的とする。博士前期課程ナノ生命科学専攻は、あくなき探求心と人・科学・社会に貢献する高い志を持ち、世界最先端のナノ動態計測・制御の知識と生命・物質科学分野の知見や感性を併せ持ち、未踏ナノ領域に向かう研究の素養を身につけた人材を養成する。

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
<b>【修了認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】</b>	<b>【教育課程編成に関する基本的考え方】</b>	<b>【入学受入れに関する基本的考え方（前文）】</b>
ナノ生命科学領域の授業や様々な研究活動を通じて、次に掲げる能力を修得させるとともに、所定の期間在学し、かつ所定の単位を修得した上で、修士論文の審査及び最終試験、若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格した学生、又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に「修士（ナノ科学）」の学位を授与する。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる学修成果に到達するため、ナノ生命科学領域に関するカリキュラム（教育課程）を編成する。具体的には、以下のように科目を体系的に編成する。	学士課程等で修得してきた分野の基盤的専門知識のほか、基本的な英語運用能力を備え、研究者として求められる資質や探求心、直観力及び基本的倫理観を有する者を受け入れる。
<b>【学生が身に付けるべき資質・能力】</b>	<b>【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】</b>	<b>【求める人材】</b>
1.ナノ生命科学に関する全方位的な研究を行うための基礎力 2.自身の研究分野と他分野を融合させた研究計画を立案する能力 3.未踏の学際領域や新たな分野に積極的に関与する意欲と能力 4.基盤的な研究分野に係るプレゼンテーション力・コミュニケーション力・文書作成能力	「あくなき探求心と人・科学・社会に貢献する高い志を持ち、世界最先端のナノ動態計測・制御の知識と生命・物質科学分野の知見や感性を併せ持ち、未踏ナノ領域に向かう研究の素養を身につけた人材」を養成するため、ナノ現象を直接観察・理解するための「ナノ計測学」を大きな柱とし、それに加え、「超分子化学」「数理計算科学」「生命科学」の4分野を教育研究の柱となる分野とし、以下の科目を配置する。 1.研究者として未踏領域に挑戦する意欲を育み、科学に対する視野を広げるための基幹教育科目 2.分野融合を重視したナノ生命科学領域を学ぶに当たり必要な基礎的知識を基礎及び専門の2つのレベルに区分して、自らの研究分野以外の領域を含め、体系的に学ぶナノ生命科学基盤科目 3.研究していく上で必要となる基礎的な技能を身に付けるためのスキル科目 4.分野融合研究や学内外での多様な研究に参画し、他者とコミュニケーションしながら科学に向き合う姿勢を身に付けるためのプロジェクト科目 5.自身の研究分野に関する課題を発見し、プレゼンテーション力、文書作成能力を涵養する研究推進科目	学士課程等で修得してきた分野の基盤的専門知識のほか、基本的な英語運用能力を備え、研究者として求められる資質や探求心、直観力及び基本的倫理観を有する者を受け入れる。
	<b>【学修成果の評価】</b>	<b>【選抜の基本方針】</b>
	（1）学修成果の評価については、シラバス及び入学年度毎に発行する履修案内に記載する。 （2）論文、特定の課題についての研究の成果の審査及び博士論文研究基礎力審査に対して審査基準と審査方法を明示し、それに基づき研究成果の審査及び試験を行う。	学士課程等で修得してきた分野の基礎的専門知識及びナノ生命科学研究に関する意欲を重視し、小論文、口頭発表、面接、口頭試験の結果を総合的に判断する。
		<b>【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】</b>